

行政書士試験対策 辰巳法律研究所刊

これ一冊だけで合格レベル到達本 行政法&民法

行政書士試験対策
辰巳の本気で勉強シリーズ

これ一冊だけで合格レベル到達本

55
テーマ

行政法

監修 リーダーズ総合研究所 山田 斉明
主任講師

新機軸/出る・出たBook

①試験に出る55テーマを厳選&網羅
②試験に出た箇所(過去10年分)網羅

辰巳法律研究所

行政書士試験対策
辰巳の本気で勉強シリーズ

これ一冊だけで合格レベル到達本

76
テーマ

民法

監修 行政書士試験!合格道場 指導講師 三木 邦裕

新機軸/出る・出たBook

①試験に出る76テーマを厳選&網羅
②試験に出た箇所(過去10年分)網羅

辰巳法律研究所

辰巳法律研究所が、過去10年の行政書士本試験出題傾向を徹底分析。本試験に「出た」箇所・今後「出る」ことが予想される箇所をテーマ別に厳選。

行政法・民法という最重要2科目について、合格レベルに到達するために必要な知識だけをコンパクトにまとめました。

◆行政法

リーダーズ総合研究所 主任講師 山田 斉明 監修

定価 1,998 円 (税込 /A5 サイズ)

◆民法

行政書士試験!合格道場 指導講師 三木 邦裕 監修

定価 2,106 円 (税込 /A5 サイズ)

行政書士をめざす方のための

2015 年度

行政書士試験 合格体験記

無料



辰巳法律研究所

Tokyo • Yokohama • Nagoya • Osaka • Kyoto • Fukuoka



☆☆☆ No.01

過去問の繰り返し学習から方法論を転換。 わずか 1 年で得点が 80 点アップしたリーダーズ式！

	平成 27 年度行政書士試験合格	受験回数：4 回
	加藤 隆顕さん	平成 27 年 216 点 (合格)
	(35 歳)	平成 26 年 136 点

辰巳法律研究所&リーダーズ総合研究所の講座は P.42 参照

【講座受講歴】

- ・基本フレームワーク講座
- ・答練
- ・一般知識講座
- ・直前講座
- ・リーダーズゼミ

■はじめに

山田先生の平成 26 年の模試解説を聞いた際、処分性のご説明が大変分かりやすく、是非先生の元で勉強したいと思った事が先生を知った切っ掛けでした。基本書での講座、ビジネスでも役に立つフレームワークを使った整理とが自分の求めているものと合致し、受講することを決めました。基本フレームワーク講座、答練、ゼミとを受講しました。受講形態は、基本講座と答練については通信及び定例会の参加。ゼミは通学でした。講座の熱量を感じてモチベーションを上げたかったことと、思考のプロセスが正しいかどうかを直接質問したいという思いから、通学のできる講座を選択しました。

■合格までの道のり

記憶の為のツールを一か所とするという事を指

針とし、主に総整理ノートへ情報を集約していました。また、各教科、以下のポイントで勉強していました。

・行政法

H26.11 月～ H27.2 月頃まで、先生の講座が本格的にはじまるまでは、サクハシ行政法、行政法・行政救済法のエッセンスの通読によって体系的な理解に努め、橋本判例集、判例六法でそれを深めました。講座がはじまってからは、公開日に必ずすべての講座を閲覧する事を徹底し、随時、答練とゼミでの演習でアウトプットの確認を行いました。夏を過ぎた頃から、サクハシ行政法と山田先生の提供するつぶやき確認テスト、総整理ノートで記憶に専念しました。これらのインプットがあれば知らない問題は殆ど出ないだろうと信じ、迷わず記憶に努められたことが勉強をする上での安心に繋がりました。

・民法

先生の講座が始まるまではタクティクス民法の重要問題の演習と習熟に努めました。講座開始後、基本フレームワーク講座にて、入門からの民法という基本書で理解を深めました。記憶は総整理ノートにて行い、要件効果、判例の整理に徹底しました。

・憲法

大問のテーマ、判例のタイトルを見ればその内容と、要旨が頭に浮かぶよう、総整理ノートを何度も繰り返しました。行政法、民法に比べると勉強量は少なくありましたが、憲法の勉強を通した、判例理解の方法はすべての教科のベースとなり、理解にとっても役立ちました。

・一般知識

資料政経の通読と、講座での重要ポイントの理解に努めました。年表と共に記憶する方法が特に役に立ちました。

・基礎法学

民法で見る法律学習法という書籍を通読していました。民法の体系的な理解方法という視点で、非常に役立ちました。

・会社法

深い理解と細かい記憶は避けました。制度主旨を理解し、問題を解く際に明らかな間違いに気付けること、肢の衡量で妥当な肢を選べることを目指し、総整理ノートの通読を行っていました。

■出題範囲を知り、記憶と向き合うこと

山田先生の講座を受けるまでは、とにかく過去問の繰り返しと周辺知識の理解のみで勉強を行っていました。過去問と周辺知識があれば合格レベルに達せると盲信していたのです。今振り返ると、出題範囲を全く網羅できていませんでした。基本書をベースとした勉強を行う事が出題範囲をカバーする事に繋がり、必要事項を体系的に理解することができました。また、過去問のみで勉強していた時期には、何を記憶すれば良いかが明確でなく、必要な記憶から逃げていました。体系的な理解は覚えるべき事の整理へと繋がり、記憶と向き合う事が合格までの道のりで非常に効果の高いことだったと感じています。

■私の『成功談と失敗談』

基本書の理解によって出題範囲を網羅すること、集約した情報を記憶すること。この二つが成功のポイントでした。逆に、合格した年度以前は出題範囲を網羅せず、過去問ばかりを解いて記憶から逃げていたことが失敗談です。やる事が決まれば、あとはやるだけでした。夜は仕事で帰宅が 0 時頃だったので、毎朝 1～2 時間程度の勉強と、休日は時間がある限りやるべきことをやる。それが当たり前の生活となるまで習慣化し、適切な理解・記憶を繰り返すことで習熟度が上がりました。

■最後に

何を知り、何を理解すべきか、何を記憶すべきかを見誤ると、努力の割に点数がなかなか上がりません。効果的な勉強の為には、努力の前段の計画が必要です。受験を通し、自身の計画が正しいかどうかを適切な人に相談することが重要だと痛感しました。また、多くの方と出会い、今までの日常とは違う新鮮な経験を得る事もできました。予備校はやり方を学ぶ所であると同時に、同志との意見交換により切磋琢磨し、併せて受験を深く知る先生によって、自身のやり方が正しいかの確認を行う場所なのかもしれません。私はリーダーズ総合研究所からそれを学びました。これら財産を今後の人生で活かします。これから受験される皆様、受験を通して何か血肉となる経験と、そして何より合格を手にするように祈っています。



☆☆☆ No.02

合格への近道は 「自分なりの勉強法をいかに早く確立するか」



平成 27 年度行政書士試験合格

小林 那緒さん

(30 歳)

受験回数：5 回

平成 27 年 180 点 (合格)

平成 26 年 154 点

辰巳法律研究所&リーダーズ総合研究所の講座は P.42 参照

【講座受講歴】

- ・基本書フレームワーク講座
- ・リーダーズゼミ
- ・民・行チャレンジ模試
- ・全国公開完全模試
- ・一般知識早まくり出題予想講座
- ・法令科目早まくり出題予想講座
- ・直前記述対策講座

■はじめに

私が基本書フレームワーク講座を選んだのは、山田先生のファンであることも大きな要因ですが、先生の提唱する「森から木、木から枝、枝から葉」という全体像ありきの勉強法が、自分に最も合うやり方だと思ったからです。

ゼミを受講したのは、通学の機会が欲しかったからです。一人で勉強していると怠けてしまうタイプだったので、強制的に勉強する機会を設けること、切磋琢磨できる仲間に出会うこと、講義の復習のペースメーカーとして活用することの3つの目的で、受講を決めました。

■合格までの道のり

勉強初期は、講義を受講した後、ひたすらテキストや過去問の集約化に努めていました。テキストは文字が中心だったので、頭に入りやすいよう、

自分なりの言葉や図にまとめた教材に作り変えていきました。自分で図解する作業は、テキストの内容を理解していることが前提となるので、アウトプットの良い練習になりました。そして、まとめる過程で基本書や過去問を納得いくまで調べるので、能動的に知識を吸収でき、そのぶん記憶にも残りやすくなります。まさに一石二鳥の勉強法でした。

講義は、一度受講したらもう聴かないと決めていました。たとえ、途中で聞き逃しても巻き戻しません。その方が集中して聴けるし、割り切った心構えを持つことは本試験で役に立ちました。本試験では、たいてい予想外のことが起こるものなので、何か不測の事態が起きても平常心で臨めるよう、普段から心がけていました。

直前期は、記憶中心の学習でした。私は、目で見ただけが一番記憶に残りやすかったので、自分で図解したものを繰り返し見ること、記憶の上書きをしました。

ゼミは、いつ先生に質問されるかという緊張感の中で必死に頭を回転させるので、そのプレッシャーが良い刺激になりました。また、自分では気付かなかった弱点がわかるので、その点を中心に復習していくことで、重要テーマの基礎知識を漏れなく確認できました。

模試は、点数はとくに気にせず、自分の苦手な

テーマを知り、どの科目のどのテーマを重点的に勉強していくかという今後の勉強方針に活かしました。

■自主ゼミのススメ

毎週、3～5人で4～8時間ほど、ファミレスで勉強会を開催していました。

自主ゼミは、自分の勉強進度の指針になったり、挫けそうな時には仲間に励ましてもらったり、勉強を続ける原動力になりました。私が今まで諦めずに勉強を続けてこられたのは、切磋琢磨できる仲間がいたおかげだと思います。お互いの勉強法の良いところを取り入れたり、講座や受験情報などの有意義な情報交換もでき、一人で勉強しては得られないものも多かったです。

■私の成功談

合格への近道は「自分なりの勉強法をいかに早く確立するか」だと思います。

私は、5年という長い受験生活の中で、他人と比べずに自分のペースで勉強を続けることの大切さを実感しました。それぞれの環境によりベストな勉強法も変わってくるので、合格への道は受験生の数だけあると思います。周りに刺激を受けるのは良いことだけど、比較してネガティブになったりせずにしっかり己を持ち、自分にできることとできないことの線引きをし、優先順位をつけて勉強をすることが大事です。

■最後に


合格は、諦めたころにやってきます！…というのは半分冗談ですが、合格すべきタイミングは人それぞれ違います。でも、諦めなければ必ず来ます。要は、そのタイミングが来たときにチャンスを掴めるよう、最大限の努力と何度へし折られてもへこたれないポジティブな心を持って、備えておけばいいのです。これが人生最後の受験になっても後悔しない、と胸を張って言えるくらい死力を尽

くせたら、合格は見えてくるはずですよ。諦めがつく境地に至るまで、諦めずに挑んでいってください。



☆☆☆ No.03

**努力は裏切りません。
自分を信じてがんばってください。**

	平成 27 年度行政書士試験合格	受験回数：2 回
	鬼塚 隆行さん (48 歳)	平成 27 年 202 点 (合格) 平成 26 年 156 点

辰巳法律研究所&リーダーズ総合研究所の講座は P.42 参照

【講座受講歴】

- ・民・行チャレンジ模試
- ・全国公開完全模試

■講座を選んだ理由

はじめに、辰巳法律研究所の全国公開模試を受けたのは、1 年目に独学で日本経済新聞出版社の「うかる！行政書士 民法・行政法出題パターン 30 必勝講義」と「うかる！行政書士 必修項目 100」を使って勉強していた関係で山田先生のことを知ったからです。先生の解説とガイダンスがストーリーニングで学習できるところに惹かれてこの講座を選びました。山田先生の解説は非常にわかりやすくプラスになりました。また模試は直前期の実力確認と課題発見に役に立ち、その後の勉強の絞り込みに役立ちました。

■勉強方法全般

合格までの道のり

初期段階…不合格が分かった本試験当日から 8 月頃まで

1 年目の本試験は 156 点と補正合格点までわずかに 10 点差で落ちてしまいました。

大きな敗因としては、行政法が全く出来なかったのと、会社法・憲法の基礎が出来ていなかったところでした。そこで直前期に勉強していたはとうてい間に合わないであろう会社法を早い段階か

ら基礎固めを行い、また憲法の判例を徹底して勉強し、弱点科目をなくすことを戦略として考えました。それから行政法が得点源になるように、条文・判例・法学などを繰り返しテキストを使って勉強していきました。

民法についても記述式で歯が立たないと合格ラインを越えられないと考え、基本テキストの読み込みと、出題可能性が高いところはノートに書いて覚えました。

その結果、夏ごろには合格ラインが見えるところまで基礎固めが出来たと考えます。

直前期段階…9 月から 11 月本試験まで

辰巳の民行チャレンジ模試や全国公開模試や他校の模試を受けて、問題を解く力をとにかく養いました。いくら基礎固めをしてもそれを問題で発揮出来ないと合格もおぼつかないと思います。とにかく覚えたことをアウトプットできるか、そのためにも模試や答練で問題を数多く解いて、問題を解く力を身につけることを集中的に行いました。また、8 月までに憲法・民法・行政法・会社法の基礎固めは行っていたので、模試で抜け落ちている、弱点を見つけて、直前期はそこだけを重点的に勉強し、一般知識が追いついていなかったなのでその強化に努めました。

あと、記述で取りこぼしのないように民法・行政法はとにかく出題可能性のある分野は書いて覚

えることに努めました。おかげで自信を持って本試験に臨むことが出来ました。

■合格に至るまでの出来事

本試験当日の出来事・試験時の心境等

私は、直前期の模試で、時間配分とどこから解けばスムーズにいくかをシミュレーションしていました。その中で、じっくり解かないと得点出来ない分野から進めることが一番しっくりくるようになっていたため、本試験もその通りに進めました。記述式でそこそこ出来たので、かなり余裕を持って多肢、一般知識と順調に問題を解きました。ところが、一般知識で見たことがない問題が出て、頭がパニックになってしまい、どうしよう一般知識足切りで落ちてしまうと焦ってしまいました。そこで、気持ちを落ち着かせるために問題を一旦閉じて、目を閉じて胸にしまったお守りに手を当てながら、これまで 1 年間頑張ってきた苦労を思い出し、ここであきらめるわけにはいかない、大丈夫絶対受かる！と自分に言い聞かせながら数分間瞑想し、心が落ち着いたところで、一般知識を途中で切り上げ、法令の択一を解きました。こちらは特に詰まることなく出来たので、最後の残り時間を使って一般知識をなんとか解きました。最初にやった時と違い、落ち着いて解いたことでなんとか足きりにあわず合格ラインを超えることが出来ました。途中で投げ出さず、最後まであきらめない気持ち、心を落ち着けるため、一旦問題を解くのをやめる勇気などが合格につながったと考えます。

■これから受験する方へのアドバイス

私の『成功談』

2 つあります。まずは本試験の翌日から翌年の本試験までの日数を数え、スケジュール帳のカレンダーにカウントダウン日数を記入し、今日は本試験まで何日なのか明確にし、弱点を早めにつぶ

していったことです。弱い科目や分野を直前期に残していると焦ってしまい消化できずに本試験を迎えてしまいます。1 年目はそれで失敗したので、2 年目はそこを強く意識し、あと何日あるか、今日何をすべきかを意識して勉強をしたのが合格につながりました。2 つめは、問題を解く力を付けたことです。辰巳の模試は良問で繰り返し繰り返し解きました。早い段階からこの力を付けることはとても重要です。

■後進へのメッセージ

最後に、行政書士の試験を受けられる方にアドバイスです。

まずは、行政書士試験でどの科目で何点取るか、目標を定めることが重要だと思います。私は本試験は 202 点でしたが、目標を 240 点に定めていました。1 年目は 180 点ぎりぎりを目指しましたが、これでは合格点は取れませんでした。本試験は何が起こるかわかりません。記述や一般知識で予想もつかない問題が出たりします。そんな時に 240 点を取る目標で弱点を作らない勉強をしていたことが生きてきます。240 点を取るためには記述や会社法でも得点を取らないと無理ですから、早い段階から弱点を克服する勉強をしておくことをお勧めします。また仕事をしながら勉強をしている方には通勤の合間や、お昼休み、移動時間などスキマ時間の活用をおすすめします。ちりも積もれば山となるという言葉があるように 5 分や 10 分のスキマ時間にパッと見れるテキストや問題集を常に持っておいて、今日は民法、明日は行政法と、工夫しながらコツコツ勉強することを心掛けてください。努力は裏切りません。自分を信じてがんばってください。必ず合格するという強い気持ちを持ち続けて日々の勉強に臨んでください。

以上

当パンフレットの内容に関しては、
資料をご請求の上、ご覧ください。